

御池通沿道のマップづくりワークショップ・ニュース(NO.3)

平成17年2月16日発行

発行：京都市都市計画局都市企画部都市づくり推進課
問合せ先：都市づくり推進課（TEL 075-222-3503）

御池通界隈の魅力を発掘し発信する「御池通沿道のマップづくりワークショップ」の第3回は、平成17年2月6日（日）の午後1時から、3つの区域（鴨川から烏丸通、烏丸通から堀川通、堀川通から千本通）に分かれてまちを歩きました。それぞれの区域に特徴があって、新たな発見もたくさんあったようです。

ご参加のみなさんが歩いて話された御池通界隈の歴史や魅力をみてみましょう。

第3回の各グループの発表から



3班 <千本～堀川>

- この地域は二条城、神泉苑がある。水が豊富で染屋が多く、薪などの燃料屋も多い。
- 堀川から西側は通りの幅が狭く両側の距離が近いためコミュニケーションがとりやすい。
- 祇園祭の神輿会「三若」の建物やシルバーサービスによる託児所「ばあばサービス」がある。
- 銀杏並木もきれいだ。
- 地域の方でつくられた手作りの道の案内があった。
- 地図で各通りの説明を書いたものもつくれた。



まちあるき



2班 <堀川～烏丸>

- 強制疎開で広がる前の御池通は6m幅で、少しずつ南にふれていった。
- 小型の市バスが二条駅から三条京阪を走っていた。
- 屋敷跡などの石碑がたくさんある。この区域には勤王の志士が3人いた。
- 日本三筆の一人の住居跡や有名なお菓子屋もある。
- 柿本人麻呂にちなんだ柿本町という町内がある。
- 龍池小は二条殿跡で金座、銀座の跡の石碑も残っている。
- いろいろな時代のものが重なり合っているので整理をしなければいけない。
- 町名で歴史を感じるもののがたくさんあるので、調べてみたい。

1班 <烏丸～鴨川>

- 南側が疎開で広がっているので北側は昔の家が残っている。
- かつては6mぐらいの細い通りで、寺町通で行き止まりになり、そこに市場があったそうだ。
- 現在の市役所前広場はなく、道が少し北にふれて、また東へ道が抜けていたようだ。
- 市役所の裏側にお寺があったので、押小路通は東に抜けていた。
- マンションを除けば、通り沿いに住んでいる人がほとんどいない。
- こういう話し合いを持ってどういうゴールを目指すのか、どういう御池通を目指すのかが見えてこない。

